

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2171100452		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム「我家我家」		
所在地	岐阜県多治見市小泉町4丁目 2 2 8 (電話) 0572-27-8333		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年5月21日	評価確定日	平成19年7月4日

【情報提供票より】

(平成19年 5月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 12人, 非常勤 7人, 常勤換算	16.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1～2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,800 円	その他の経費(月額)	30,500～ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (380,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	150 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (5月 1日 現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	2 名	要介護 2	8 名
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82.4 歳	最低 50 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はら内科クリニック、沼田歯科、ささゆり薬局
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

通称ダンプカー通りと言われる表通りから一步入った狭い裏通りに、忽然と開けた広い竹林・雑木林・畑に囲まれた環境にある新築2階建て2ユニットのホームである。同敷地内にショートステイ施設があり、敷地も建物もゆったりと広い。主治医である医師が法人理事でもあることから「医療・介護・生活」のバランスのとれた運営が理念どおりに達成されており、そのレベルも高いものがある。このうえはその質的レベルを今一段と向上させ、業界他社の先導として新しい次元の『医療・介護・生活』を切り開かれることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の掲示は玄関口にされており、利用者の金銭管理についての支援は必要な方にはなされて家族への報告書類も管理されており、課題は改善されている。「市」との連携については課題としての認識はされており今後の活躍が期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価で出た課題や自己評価の過程で生まれた気づきなどを職員会議で取り上げて共有し、質的なレベルアップの材料として研鑽されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、行政・民生委員・町内会長・家族等と施設側が出席し、利用者の外出・買物・遠足などの実施報告、食事や認知症等をテーマに話し合われている。外部評価同様に会議における質疑などは、ホームの質的なレベルアップの材料として利用されて研鑽されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の家族は、入居契約時に苦情相談制度について説明され電話番号等も伝えられており、その他にホームの家族会や運営推進会議等でも発言する機会もある。現在苦情らしきものはない。家族への報告・連絡が活きたものとなるような報告書やそれに対する家族の反応、更にはその詳細などについての記録がやや不十分である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームでは、近隣地区の住民を対象にして認知症についての講演会を行ったり、あるいは体験学習の小中学生を受け入れたりして、集積された知識・経験等を地域社会に還元している。ホームで行われる盆踊りや収穫祭には地域住民にも声かけをし、多くの住民が参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「医療・介護・生活のバランスのとれた運営」「残存機能の行使による認知症進行の予防」「生きる場としての家の提供」という独自の理念の下に運営されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関口や事務所内に掲示され、全職員に徹底されている。人間らしく、自分も入りたようなホームにするべく指導し、努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣地区の住民対象に認知症についての講演会を行ったり、体験学習の小中学生を受け入れて集積された知識・経験等を地域社会に還元している。盆踊りや収穫祭には地域住民にも声かけをし、多くの住民が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を職員会議で取り上げ、質的なレベルアップの材料として研鑽されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・民生委員・町内会長・家族などが出席し、外出・買物・遠足などの実施報告、食事や認知症等をテーマに話し合われている。		会議議事録は、当日出席できなかった職員にも伝達をし、情報の共有を図るようにされたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣地区の住民を対象にして認知症についての講演会を行ったり、体験学習の小中学生を受け入れている等、地域との付き合いは順調である。	○	バランスのとれた運営がなされており、今後は市全体のあるいは業界全体のレベルアップのためにも、市とのさらなる連携でより広域的な活動も期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書等送付時にホームからの連絡事項が伝えられている。	○	家族への報告・連絡が活かされたものとなるように、その報告書スタイルやそれに対する家族の反応更にはその詳細などについての記録や方式の工夫があると尚良い。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談制度について説明され電話番号等も伝えられており、家族会・運営推進会議等でも言う機会はある。今のところ苦情らしきものはない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場環境もよくもともと離職率も低いですが、管理者は更に離職率を低くしようとする意気込みであり、それが何よりの利用者へのダメージ防止策であると努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修・講習の機会は多く、外部研修についても有給扱いで、費用は法人もちであり、恵まれた環境にある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一敷地内にある別法人経営のショートステイや隣の市にある同法人経営のホームとは、定期的に情報交換や交流が行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の2人がデイサービスを受けている。入居者は大体がデイサービスの体験を積んだうえで入居にいたり、雰囲気などに慣れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	マニュアルに添った介護が実施されている。介護しながら人生の先輩から何かをつかもうとする前向きな姿勢がある。	○	家族には職員の名前を知らない方もいるので、「介護をする職員と利用者・その家族」という関係からいま一歩踏み込んで、人々との関係を構築する取り組みに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「自分だったら・親だったら」の思いのもとに本人の希望を尊重し、買い物、散歩、畑作業など入居者の力量に応じて、場面提供し、自分で選択できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員参加のケアカンファレンスで、持ち寄られたケアアセスメントにもとづき、適切なケアプランを作成している。	○	入居後のケアアセスメントにおける家族の意向は出にくいものがあるが、ケアプランは家族とも話し合っって作ったという納得性が必要であり、説明ではなく話し合いが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは期間内に定期的に見直しされており、変化があれば随時見直しされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新規にグループホームを利用した共用型通所介護対応を設けたり、同敷地にショートステイ施設を持ち、医師が中心となり、その多機能性を持ち備えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人理事の主治医が月2回往診し、適切な医療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の迎え方については家族の希望をもとに当ホームで出来ることを主治医ともすり合わせて、既に2人の『看取り』が行われている。臨時宿泊者用の寝具は常備されている。		医師が理事であるという点で『看取り』について恵まれた環境にあり、家族の希望や本人のためにも引き続きの支援を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には研修期間中に重点指導されている。その後においても職場内研修中心に徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の入居者で、夜はオムツであっても昼は全員リハビリパンツを使用し、トイレ介助が行われている。本人中心のペースや時間経過で見守りされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事をし、下膳や後片付けも出来る人は行っている。広い食卓・食堂でゆったりと落ち着いて食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後の時間帯や夕食前に入浴であるが、夜間入浴希望者にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶会、畑仕事、敷地内の竹林では沢山の竹を採って収穫祭を催すなど、四季折々のリズムが作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的には毎日外出することが目標となっている。散歩は敷地外に出掛けているが、畑や竹林・雑木林で囲まれた広い敷地内も歩行用に通路もよく整備されおり、快適である。買物時の金銭管理も支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	センサーチャイムはあるが鍵掛けなどはされていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への直通電話・火災報知器・煙探知器が備えられ、入居者・職員の避難訓練は消防署の指導の下で定期的に行われている。年1回の救命訓練は職員全員が受講している。地域住民にも入居者避難についての協力が依頼されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っており、食事・水分摂取やバイタルチェックも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは1階と2階で計8ヶ所、居間・廊下・台所・食堂・浴室と広くゆったりして快適である。隣のショートステイ施設とあわせ広い敷地が確保され、竹林・雑木林に囲まれた環境で風通しが良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔でゆったりと広く、自分で描いた絵が各所に飾られたりして、本人好みに合った部屋が作られている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。